



# K.G.H. REVIEW

発行 関西学院高等部  
住所 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原

## 高等部長メッセージ 退任に際して

### 関西学院高等部ここに在り

高等部長 澄田 新



高校時代、古文の授業で「奥の細道」の「月日は百代の過客にして行き交ふ年もまた旅人なり」という文章を学びました。月日と同様、人生もまた、芭蕉が実感したように旅であると思います。

今、旅立つ君を見て、感慨ひとしおです。高等部の三年間で、君は何を見、何を考え、何を感、何を実践してきたのでしょうか。また、ど

私の決定的な出会いは、出版時代の二十五歳の時でした。それは、出版社の仕事で、東京の山谷で伝道活動をされていた中森幾之進先生とお会いした時に始まります。

熱心に話しています。私もその中に入って、話を聞くと、平和とは何か、死とは何か、という哲学的な難しい話をしています。教会は、穏やかで、清らかな讃美歌が流れているところ、と思っていた私は驚きました。話している間に分かったことは、ステテコ姿のオジさんが、中森幾之進先生であることでした。本当

に驚きました。その日から二年間、月一回程度のペースで中森先生にお会いし、彼の書齋である「玉姫館」で、生きるとは、愛とは、仕事とは、という話や、中森先生が歩んで来られた人生の話や、失敗談や、いろいろなお話を聞き、また私も話をしました。お会いして二年後の夏の夕暮れ、先生と話し終えて玉姫館を出た時、私は自分が旅の出発点に立っていることを感じました。

「下へのほろ歌」という本を出版された、私はその本を頂戴しました。その本の表紙裏に、中森先生の自筆で「われ弱き時に強し」という聖句が書かれています。

高等部の正面玄関に掲げられている「凡ての人の僕（しもべ）たれ」という聖句を大切にしてください。この聖句の生き方は、中森先生が歩まれた「下へのほろ」生き方です。中森先生に出会って四〇年、私はこの期間、先生が歩まれた

「下へのほろ歌」という本を出版された、私はその本を頂戴しました。その本の表紙裏に、中森先生の自筆で「われ弱き時に強し」という聖句が書かれています。

君の新しい旅立ちに、神様の豊かな祝福があることを祈っています。卒業おめでとうございませう。

「私たちの代は弱いと言われていました。とても全国大会には行けないとまわりから言われていました。」  
今年の三年生が大学に提出した自己推薦書の中に、こう記した諸君がたくさんいた。そしてその重圧を見事にはね返した諸君もいれば、そうでなかった諸君もいるだろう。それは仕方がない。結果だけを問うのは無意味である。第六十三代卒業生の諸君、

## ラグビー部快進撃

### 堂々の全国3位!!

二月の新人戦、六月の県民大会と報徳に連覇し、初の年間制覇と花園を誰も期待していません。しかし、兵庫県決勝での王者・報徳の集中力は凄まじく、焦りが緊張が関西学院のプレーは精彩を欠き苦戦を強いられた。試合終了間際の、後半は唯一のチャンスに、一年間こたわってきたフォワードの攻撃をしかけ、最後は徳水が意地のトライ。一九一〇で勝利した。そうして迎えた第九十回全国大会。これまでの成果が認められ、初のBシードとなり、



十二月三十日の二回戦から登場。攻撃力のあるトンガ人留学生二名を擁する日本航空石川に対し、積極的なディフェンスで相手の動きを止め、作戦通りの勝利。初の花園での年越しとなった。

元且の三回戦・國學院栃木戦は、相手の展開ラグビーに翻弄されつつも、タフさを意識して一年間培ってきた地方でもって二十一―十五で辛勝。続いてベスト4進出を賭けた一月三日、準々決勝は、名門・國學院久我山との試合。試合開始直後に二年徳田がトライを挙げたが、その後は両者譲らず、熾烈な攻防が続いた。結局そのままスコアは変わらず五―〇。凄まじいまでのタックルが印象的な痺れる試合で、初のベスト4進出を果たした。

厳しくも優しく熱いキャプテン鈴木を筆頭に、堅い絆で結

「一日でも長く花園で」を

監督あいさつ 安藤昌宏

三年ぶりの花園はラグビー部にとつて忘れることのできない場所。そして時間となりま

め、関西地区準決勝戦では京都一位の立命館宇治高校と何度も競り合った結果、二十八―二十一で見事昨年の雪辱を果たし、決勝戦では大阪一位の関西大学第一高校に三十四―七で勝利して六年ぶりのクリスマスボウル進出となった。

最高の晴れ舞台に、実に多くの方々が両校の応援に駆けつけて下さり、最高の結果を残すことは惜しくも出来なかつたものの、梶原主将を始め、大きく成長を遂げた選手たちは皆輝いていた。今回達成できなかった目標の続きは新しいチームに託されることとなった。

監督あいさつ 中尾昌治

目標に臨んだ大会は、名誉あるBシードをいた

怪我人を抱え不安があったこと

しかし、外国人留学生を抑えた二回戦で不安は一掃され、準々決勝・名門國學院久我山戦での選手の見事な本当に見事でした。チーム史上初めて花園で新年を迎えることができた。さらに全国三位の戦績を収めることができました。

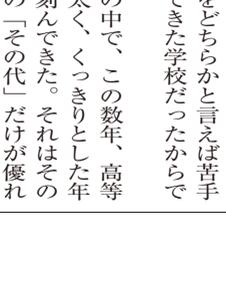
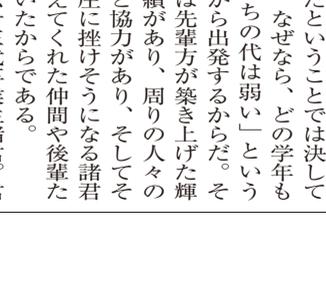
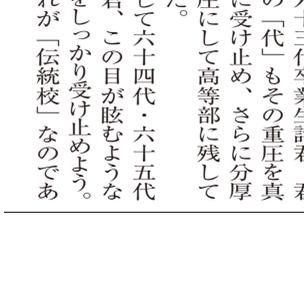
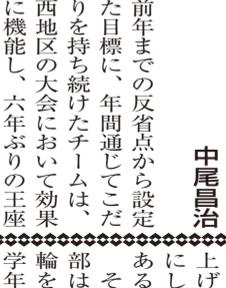
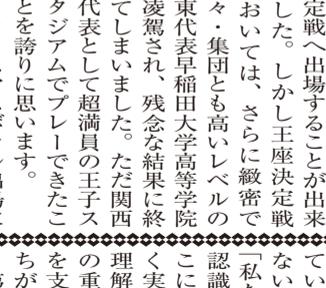
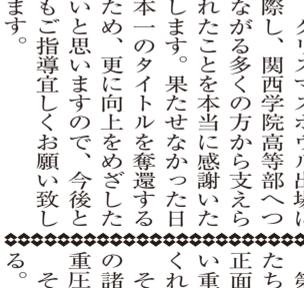
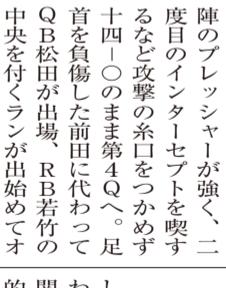
素晴らしい環境で、自分達の持てる力を存分に発揮することができたのも、大勢の関学関係者の皆様方に花園まで足を運んでご声援いただいたおかげであるとラグビー部関係者一同感謝しております。

三年ぶりの花園はラグビー部にとつて忘れることのできない場所。そして時間となりま

め、関西地区準決勝戦では京都一位の立命館宇治高校と何度も競り合った結果、二十八―二十一で見事昨年の雪辱を果たし、決勝戦では大阪一位の関西大学第一高校に三十四―七で勝利して六年ぶりのクリスマスボウル進出となった。

最高の晴れ舞台に、実に多くの方々が両校の応援に駆けつけて下さり、最高の結果を残すことは惜しくも出来なかつたものの、梶原主将を始め、大きく成長を遂げた選手たちは皆輝いていた。今回達成できなかった目標の続きは新しいチームに託されることとなった。

監督あいさつ 中尾昌治



文化祭を終えて

執行委員長 岩崎有樹

実際に文化祭があった日から約三ヶ月たちましたが、いまだに賑やかな思い出を思い出すことができます。時間をかけて準備をすませ、新しい企画にも挑戦した二〇一〇年度の文化祭は、たくさんの貴重な経験を積み重ねることができました。多くの人と共に作りあげた今年度の文化祭は、たとえ男子しかいない関学でも、とても華やかに仕上がったと胸を張って言うことができます。多くの生徒が関わり大きな成果を上げた文化祭でしたが、ここでは特に一年生のモニュメント展示、Chain Reaction賞を受賞した芸術回廊そして文化祭最優秀賞を受けた四人のコーラスグループ「ブロックス」を紹介します。

☆最優秀賞☆ ブロックス

3D 野口 尚樹



斐あつてか、最優秀賞をいただき大変光栄です。教会のクリスマスコンサートなどで演奏を続けております。これからも、どうぞ応援よろしくお願い致します。

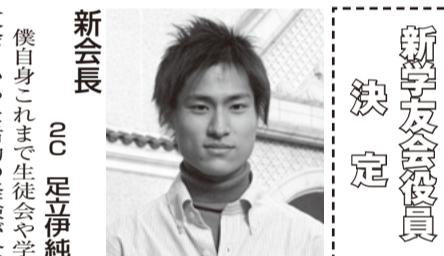
美術部・写真部

Chain Reaction賞 芸術回廊

美術部部长 和田 将彦

あらゆることにChainを取り込んだことが受賞理由のようです。Chainを模した装飾だけでなく、展示内容のメインとして、壁から飛び出す巨大なChainのオブジェを制作しました。また、写真部員が連鎖反応の象徴として、最高の形で終えることができました。

一スローガンー “Chain Reaction” ~皆の風を吹き込め~



新会長 2C 足立伊純

僕自身これまで生徒会や学友会といった活動の経験が全くない上に、頼れる存在であるはずの副会長の役割も今年度は空位のままスタートすることになりました。新年早々、何やら波乱の幕開けの子感がします。未熟な僕が生徒達とこのプレジデントとも呼べるこの役割に着任したことは、高等部にとってもアシデントになっていないだろうか、と微かな不安を覚えます。未だ本部役員の間で顧問に頼り切っている僕ですが、この高等部に良い意味でのアシデントを巻き起こしていけるよう、日々精進していきたいと考えています。この一年間、生徒達一人一人を照らし出す光のような役割を果たしていければ良いなと思っております。よろしくお祈りします。

趣味は野球観戦で、日本プロ野球だけでなく台湾、韓国野球の研究を独自にやっています。読書も好きで、最近では新書を読むことが多いです。足立会長はたくさんの施策を掲げ、実現に向けて努力しています。そんな彼の支えとなれるよう、与えられた仕事だけでなく自ら仕事を見つけてこなせる役員でありたいと思います。どうぞ一年間宜しくお願い致します。

この写真は、夏休みを使って北海道に自転車ツーリングをしたときに撮りました。いくつか写真の候補がありましたが、一番お気に入りの写真が大賞になったのでとても嬉しく思います。ここはエサナカ線と呼ばれています。交通量が少なく、約10kmもの直線が魅力なところで、ライダーに人気のある道です。車

やバイクが来ない時を狙って自転車を真ん中に置き、広大さを表すために下から撮る構図にしました。皆さんも是非、相棒とカメラを持って出掛けましょう。

留学生のフィリダウス君が二月二日のアッセンブリーでプレゼンテーションを行った。内容は故郷マレーシアの紹介とそこでの自分の生活の紹介だった。パソコンのトラブルがあり五分以上生徒を待たせることになってしまったがフィリダウス君は皆を落ち着かせようと呼びかけていた。また発表の内容もわかりやすく、何より日本語が驚くほど上達していた。最後にス

中国からも訪日団 2D 大川 将



十一月十五日、中国の学生二十名が関西学院高等部を訪れてくれた。礼拝の時間で彼らは地元を披露してくれ、その後彼らに学校案内の動画を視聴してもらった。異国の学校の様々な行事に興味津々の様子だった。動画鑑賞後は関学学生数名と訪日代表団の生徒とたちで一緒に交流する機会を設けてもらい、そこでは日中の学生で一つのテーブルを囲み折り紙を折りながらお互いの親睦を深めた。外交上では尖閣問題などで緊張の走る日中間であり彼らが来ることに少し不安もあったが、学生同士ではそのような壁は全くなく、お互いとても気持ちの良い関係が築けた。これを機に今後お互いが日中の良き橋渡しとなっていければ嬉しい。

今年度の文化祭の新企画は、一年生全クラスによるモニュメント展でした。各クラスの文化祭委員が週一回集まって会合を重ね、コンセプトから制作計画までをしっかりと管理・運営しました。文化祭委員は自分のクラスへそれを持ち帰ってホームルームで話し合った結果、A組「ハウルの動く城」B組「澄田部長」C組「ジョーズ」D組「シンデレラ城」E組「ゴイングメリー号」F組「関西学院時計台」G組「ポテトヘッド」と決定し、一般展示に向けて数週間かけての制作に入りました。一体だけでも高さ3m以上あり、展示前日に七体がチャペル前にそろった景観には圧倒されるものがありました。今年度の文化祭に新風を吹き込んだことは間違いない

でしよう。高等部の教員と一般の方の審査を経てF組が最優秀賞を得ました。以下、F組の文化祭委員川口陽生君の感想を掲載します。 「どうせやるんやったら中途半端にやらんと、見た人が感動するようになすげえ作品作ろうや」を合言葉に始まったF組のモニュメント制作。初めは委員を中心とした少人数で行っていたが、次第に他の

仲間が積極的に参加するようになっていった。なぜなら、夜遅くまで作業をしていると芝川先生が差し入れをくださるといふ衝撃的な事実を知ってしまったからだ。(笑) その懸念に作業をこなしていった。作品名「時計台になりませんか？」から分かるように、F組はとてユニークなクラスである。だからこそその行動

であろう。理由はどうあれ、協力してくれた仲間感謝している。また、他のクラスと切磋琢磨できたこと、この二つが勝因であろう。この文化祭で学んだことは準備を怠らず最後までやり遂げることで良い作品ができ、達成感が得られること。そして、一つの目標に向かって仲間と協力することで、クラスの絆が深まるということだ。」

書記役員 2E 土方真之 先輩方、同級生の生徒が主体となって学校活動を運営している学友会が大変興味をもち、自分もその中で活動したいと思いました。書記の仕事は縁の下のような力ですが、精一杯がんばりたいです。また、副会長が不在ですが、会長を中心に役員全員で協力し、高等部がより良くなるように全力投球で取り組みたいと思います。生徒一人一人の意見も大切に耳を傾け、皆さんに愛される学友会を目指します。文章力のない、まだまだ未熟な僕ですが、一年間よろしくお祈り致します。

会計役員 2E 西村幸一朗 クラブは文化総合研究サークルに所属しています。学友会の仕事は、学校の自治活動は、誰がどんなふうに行っているか、学校の様子、引き受けることを決断しました。抱負としては足立会長の掲げている政策を実現できるように、学友会の一員として協力していきたいです。学友会の管理委員会の担当として、図書館の書籍等の管理を頑張っていく所存です。また盗難対策委員会の方にも力を入れていきたいです。クラブと学友会兼任となりませんが、両方があるかにならないよう気をつけたいです。一年間よろしくお祈り致します。

日中青少年 交流事業 二回の学校交流では、中国の学生に対して知的な印象を受けました。多くの生徒が英語を流暢に話していたからです。それ相応の勉強をしているのだからと感じました。ホームビジットは私にとって印象的な出来事だったように思います。ホストブラザーと互いの趣味などの他愛のない話から、両国間の歴史に至るまで様々な話を話しました。その中で耳にした興味深い話を挙げると、ホストブラザーの学校では毎日四〇分の授業が十一コマもあり、部活動をする時間はないという事です。教育が中国の継続的な経済成長を支える柱の一つとなっているのかもしれない。教育の在り方、自分の生活態度について深く考えさせられました。

日本高校生 訪日代表団 3B 和田将彦 二〇一〇年十二月七日、日本を代表して兵庫県から四五名の生徒が中国へ向かいました。我が校から昨年と同様六名の生徒が参加しました。この訪中では歴史的建造物の見学や学校交流、ホームビジットがメイン行事でした。万里の長城や天安門広場、故宮博物院、黄鶴楼では、そのスケールの大きさに驚か

ら部員たちは皆収穫の驚きと喜びを同時に感じていたようだった。そして見上げて見ればその葉は中庭に面した一階分の窓の約三分の二を覆っていた。

秋の収穫 昨年春より学友会エゴ部が栽培してきたさつまいもが、いよいよ収穫され文化祭で「大芋芋」として販売された。このさつまいもはもとともさつまいもによるグリーンカーテン試作の副産物として収穫されたもので、品種は薩摩地方原産の「安納いも」。プランター栽培のためか小ぶりなものが多かったが個数は一〇〇近くになった。次々とその手でいもを掘り起こしな

近畿写真展 高校生の部 ☆朝日新聞社大賞 受賞 ☆ 1B 和田健利



クリーンに「ご成長ありがとうございました」と映し出された「静聴」とかけるなど、その態度には余裕すら見られた。来日の時に比べるとその成長ぶりに目を見張るものがあった。

### ◆アメリカンフットボール部

## ハワイへ

アメリカンフットボール部は、八月十九日〜二十七日、クラブ強化ならびに国際交流を目的としたハワイ遠征を行いました。準備段階から周りの方々やハワイに住んでおられるOBのご協力をいただき、実現に至りました。交流試合では、残念ながらKing Kekaulike 高校に



### ◆バスケットボール部

## アメリカへ

### 海外遠征

### クラブ

二〇一〇年八月十九日バスケットボール部員四十一名を乗せた飛行機はアメリカのシアトル・タコマ空港に降り立った。空港内で迷いながらも国内線でポートランドに到着。現地のバレー・カソリック高校で各ホームステイ先にひととられていく(二人一組)で。入国審査からの緊張気味だったバスケットボール部員達は、さらに不安な面持ちでアメリカの各家庭へと向かうこととなった。

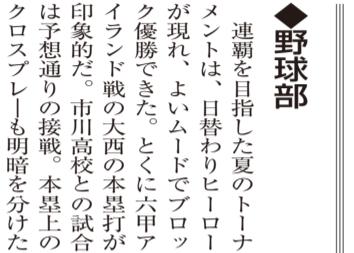
ウエスト・ビュー高校で親善試合。バレー・カソリック高校と親善試合と予定のスケジュールを進めるうち、各生徒ともホームステイに馴染み、世話になった家庭の裕福さに驚く者、自分達の希望で

### ◆剣道部

## 二年連続三回目

剣道部は、八月の兵庫県民大会では有英を破り六年ぶり二度目の優勝を果たしました。そして、十一月の兵庫県新人大会(全国選抜予選)で、二年連続三回目の優勝を果たしました。

十一月二十七日、高砂市総合体育館で行われた大会では、二回戦から出場し、兵庫県立大附、近大豊岡、三木北に勝ちベスト八に入り、準々決勝では滝川第二を破った姫路西を、準決勝では明石を五対〇のストレートで下し、決勝に進出しました。相手は、やはり育英高校でした。先鋒、寺本(一年)は引分け、次鋒、山脇(二年)は一本負けで、リードを許しますが、中堅、西村(二年)が、一本先取の後、育英の選手の小手、西村の面が交錯し、赤旗



### ◆テニス部

## 10年連続出場!

ノーブルスタボネスの精神と色々な人への感謝を忘れずに、チーム全体で日々練習に取り組んでいます。三月二十日から開催される全国選抜団体戦で昨年(ベスト16)の記録を越せるよう、チーム全体で頑張っています。(主将 垣内翔太)

全国選抜大会は三月二十七日、二十八日、愛知県春日井市の総合体育館で行われます。今年は、予選リーグを突破し決勝トーナメントに上られるように頑張ります。

### ◆柔道部

## 阪神大会新人戦では、敗者復活で勝ち上がり、県大会出場を決めました。

阪神大会新人戦では、敗者復活で勝ち上がり、県大会出場を決めました。また、個人戦では六十キロ級で一年伊藤が三位入賞のほか、田中、小田、奥谷が県大会出場を決めました。

県新人戦では団体一回戦、神戸北を相手に伊藤が五人抜きをして勝利、二回戦・育英に一人引き分けるも敗戦。個人では、伊藤が第四シード選手を見事破りベスト8に入賞し県高校選手権の出場を決めました。

### ◆ラグビー部

## シドニーの Trinity Grammar School と交流

十一月末、オーストラリア・シドニーの名門私立高、Trinity Grammar School のラグビーチームが日本遠征で高等部を訪問し、十一月二十九日に親善試合と交流会が行われた。初対面の高校生どうしでも、ラグビーを通じてすぐに打ち解けている様子が見られた。

これは、ラグビー部の安藤先生がオーストラリアに留学された際に知り合われ、その後縁あってラグビー部のコーチを務めている同校出身の Kai Ikeuchi さんの働きによるもの。しかも、同校の校長は、かつて高等部の提携校プリズベン・ボーイズ・カレッジの校長であられた McQuies 先生であり、その点においても関西学院に関わる人の縁を感じる出来事であった。こうした国際交流がさらに充実したものであることを願うばかりだ。

### ◆スケート

## シヨートトラック

### 横山君快挙!

スケート・シヨートトラック競技で活躍する二年・横山君が冬の国体で優勝という快挙を成し遂げた。昨年に引き続き出場した国体で、一〇〇〇mでは無理な追い抜きが反則とされ失格。普段から気持ちの切り替えを大切にしているとのこと、次の五〇〇mには集中して臨め、ほぼ完璧なレースができ、四十四秒九二六で見事に優勝した。

次は、昨年JOCの選考リストに入ったことで、二月にイタリアで行われる世界ジュニア選手権に挑む。初めての世界の舞台で、ただ「行った」だけで終わるのではなく、選んでよかったと言われるように頑張りたいと、決意を語ってくれた。



### ◆野球部

## 連覇を目指した夏のトーナメントは、日替わりヒーローが現れ、よいムードでプロック優勝できた。

プロック優勝できた。とくに六甲アイランド戦の大西の本塁打が印象的だ。市川高校との試合は予想通りの接戦。本塁上のクロスプレーも明暗を分けた。暑さとの戦いも壮絶、残念ながらあと一歩で敗退。スタンドからの温かい拍手が激闘を物語った。フェアプレーで最後まで諦めずに戦った姿勢は、甲子園出場の先輩たちとかわらない立派な全員野球だった。

バトンを受けた上田新主将のスタートは順調だった。地区優勝後の県大会は、強豪公立勢がひしめくゾーンへ。神戸科技との試合は、九回二死までリードを奪われ、絶体絶命。無走者から奇跡の三連打で逆転勝ち。ただ、エース神谷が負傷し大切な加古川北戦

### ◆サッカー部

## サッカー部は今年度慶應高校との定期戦を始めた。

サッカー部は今年度慶應高校との定期戦を始めた。第一回は昨年八月六日に慶應高校にて行われ関学が勝利し、深めたいと思います。十月に行われた県選手権大会は初戦小野高校に敗れ三年生は引退となりました。

キャプテンは中野君から西尾君へ、副キャプテンは酒井君から霧嶋君に引き継がれました。新チームとして臨むU18トップリーグは現在五節を終え十六チーム中二位です。また、一月二十九日より行われている県新人大会は報徳学

### ◆陸上部

## ハードルで山根が五位

昨年、無念にも近畿大会でまさかの敗退を喫し、インターハイ出場がならなかった山根は、一年間悔しさをバネに練習に励んできました。まず第一関門の兵庫県大会では大会新記録の十四秒六三で第一位となり、一〇〇mHで陸上競技部史上初めて部旗の掲揚となった。続く近畿大会でもその強さを見せつけ、堂々の第二位となり沖繩での全国インターハイ出場を決めました。

八月五日の全国インターハイ。決勝へのハードルは高く、予選を突破し、準決勝で八位以内に入らなければならぬ。しかし、山根は念願の決勝でスタートラインに立った。決勝の結果は十四秒五〇で第五位と本当に立派な結果を出した。

### ◆卓球部

## 卓球部は現在大きく成長するための鍛錬の期間に入っています。

卓球部は現在大きく成長するための鍛錬の期間に入っています。昨秋の新人戦の県大会では団体戦において、阪神地区二位で通過したにもかかわらず、近畿大会出場をかけた戦いに臨む前に敗れ去りました。とるべきところで勝ち切れない。劣勢になると焦りがでるのか踏ん張りきれない。これはシングル・ダブルスにおいても課題です。この冬は基礎的なトレーニングを徹底して行い、来年の春になればよい全国大会中、疲れて苦しむときがなくなります。悔いのないよう試合ができたと思います。

七月二十九日。第一回戦の会場は沖繩市営体育館。相手は全国大会での優勝回数も多かった。関学高チームは、ひたむきな戦いで、前半を四十二対四十二の同点で折り返した。しかし、後半は相手の伝統校としての力量が発揮され一〇八対七〇で敗北した。その後、國學院久我山高校とも練習試合をし、部員達は充足した一週間の日程を終えた。

### ◆水泳部

## インターハイ出場

八月十六日(二十日沖繩) 二〇〇m個メ 小林 大輝 一〇〇m平泳 和田 真哉 八〇〇mリレー 小林 大輝 前田 奨 濱中英泰 平田和紀 濱中英泰 ジュニア水泳競技大会結果 一〇〇m平泳 和田 真哉 二〇〇m個メ 小林 大輝 二〇〇m個メ 前田 奨 二〇〇mバタ 谷口太一 四四位 四〇〇m自由形 平田和紀 七位 四〇〇m自由形 佐藤宇宙 八位 四〇〇mリレー 五位

小林・谷口・平田・前田 四〇〇mメドレーリレー 三位 前田・和田・谷口・平田 男子総合 四位

### ◆ヨット競技

## インターハイの開催地が沖繩県ということで、美しい海で試合をすることができました。

インターハイの開催地が沖繩県ということで、美しい海で試合をすることができました。外洋に面しているため、大会中は連日強風で波も高く、また行ったことのない場所での大会ということもあり、体力的に非常に厳しい試合となりました。しかし、最後の大会ということで楽しんで戦うことができ、結果参加艇数六十四艇中十二位となりました。残念ながら入賞はできませんでしたが、ほとんどのレースにおいて上位争いをすることができました。大会中、疲れて苦しむときがありました。悔いのないよう試合ができたと思います。

た戦いに臨む前に敗れ去りました。とるべきところで勝ち切れない。劣勢になると焦りがでるのか踏ん張りきれない。これはシングル・ダブルスにおいても課題です。この冬は基礎的なトレーニングを徹底して行い、来年の春になればよい全国大会中、疲れて苦しむときがなくなります。悔いのないよう試合ができたと思います。

